

クヌギ

【区画⑦(27)】

学名	<i>Quercus acutissima</i> Carruth.	分類	ブナ科コナラ属
分布	本州～九州	樹高	15m程度の落葉高木

〈特徴等〉

名前の由来	・クヌギは国木の意味であるという。		
葉の特徴	① 常緑 ・ 落葉	② 広葉 ・ 針葉	
	③ 対生 ・ 互生	④ 単葉 ・ 複葉	⑤ 鋸歯縁 ・ 全縁
開花等	・5月頃、多数の小さな黄褐色(黄色～茶色)の花を垂れ下げるように咲かせる。		
結実等	・堅果(堅い果実)は大型でほぼ球形、径2cm程度。秋に成熟して褐色(茶系色)となる。		
その他	・虫の食害を受けて樹液を出すことが多く、カブトムシやスズメバチがよく集まる。 ・良質な炭や薪の基となったり、シイタケのほだ木(きのこを栽培する木)ともなる。		

〈写真〉

		
樹木 (5/12)	樹皮 (6/12)	葉の付き方 (5/12)
		
葉 (6/12)	花 (/)	果実(実) (/)

〈参考文献〉 牧野富太郎 (2017) 『新分類 牧野日本植物図鑑』北隆館, p. 898.
林 将之 (2018) 『葉で見わける樹木 増補改訂版』小学館, p. 18.